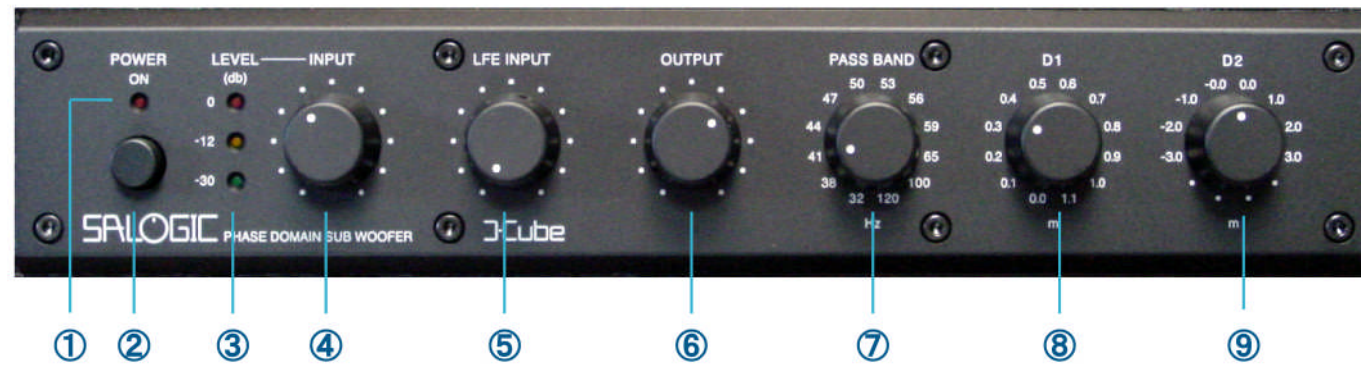


## コントロールパネル、各部の名称と使い方



### ① LED / 電源ONの表示

### ② スイッチ / 電源ON/Off

③ LED / Audio入力レベルの表示 入力のパーク時でも減多に赤が点灯しない程度が最適値です。緑が灯けば入力レベルOKです。④のAudio Gainで設定してください。

④ Audio Gain / 入力レベルの設定 Audioの入力レベルを適正值に設定します。プリアンプの音量ボリュームを鑑賞レベルの最大値にし、③の赤のLEDが減多に点灯しない程度に入力レベルを設定してください。小音量で鑑賞するときにも再調整の必要はございません。

⑤ LFE Gain / 入力レベルの設定 シアターLFEの音量ボリュームです。レベルメータは動きません、聴感でバランスを決めてください。

⑥ Audio Gain / 出力レベルの設定 Audioのモニターレベルを適正值に設定します。メインスピーカーに合わせてバランスを決めてください。

⑦ PASS BAND / クロスオーバー周波数の選択 メインスピーカーとのクロスオーバー周波数を設定します。詳細は「クロスオーバー周波数の選択とタイムアライメントの調整」を参照して下さい。

⑧ D1 / タイムアライメントの補正 リスニング・ポイントを原点に、メインスピーカーまでの距離、サブウーファまでの距離を計測し、その距離の差を”D1+D2”に設定して下さい。この操作で理論的な位相整合は完了です。但しメインのウーファーとサブウーファのユニットで、100  $\mu$  sec (1/10000秒) くらいの発音タイミングの差(距離換算で34mm)が生じる可能性があります、D.Cube2を数センチ前後させてベストポイントを決めて下さい。(http://www.salologic.com/home.files/exclusive/exclusive-data.htm 参照)  
D1の数値の単位はメートルで、10cmステップで 0~110cmの範囲の距離の設定することができます。D2が”-”の領域のときはD1の設定範囲は 0~-110cmです。「クロスオーバー周波数の選択とタイムアライメントの調整」の設定例を参照して下さい。

⑨ D2 / タイムアライメントの補正 ”D1”の1ステップは10cm、”D2”の1ステップは1mです。”D1+D2”で±4.1mの距離の差を補正することができます。D.Cube2がメインスピーカーの手前にあれば設定は”+”、後ろにあれば”-”です。

## クロスオーバー周波数の選択とタイムアライメントの調整



### クロスオーバー周波数 (PASS BAND) の選択

D. Cubeのキャビネットは密閉構造で、DSPで補正する以前の周波数特性は60Hz以下が12dB/octで低下します。DSPによる低域ブーストで周波数特性をフラットに補正しますが、38Hz以下のPASSBANDでは10Hzまで補正をかけています、38Hz以下でご使用になるときは、過大入力に充分注意してお使いください。

41Hz以上の帯域では、オーディオルームの壁・床を揺らし過ぎないように超低音の補正量を控えめにし、15Hzまでの補正にとどめています。遮断特性の傾斜は約100dB/Octです。

測定機を使わずに聴感でクロス周波数を決めるには、メインスピーカーの周波数特性データなどを参考に、①:PASSBANDの設定を理論値より低い周波数に仮設定。

- ②:メインとの音量レベルをほぼ合わせる。
- ③:メインスピーカーの音質に全神経を集中し、クロスポイントを高い周波数にシフトする。
- ④:メインスピーカーの音質が変わったら、1ポイント戻して第1段階終了です。

この周波数ポイントで暫く音楽を鑑賞し、その前後の周波数ポイントも同様にチェックしベストのポイントを選んでください。オーディオのシステムでは、38~41Hz付近が使用頻度の高い周波数です。

### 周波数選択の勘所

サブウーファのクロス周波数が低過ぎ、周波数特性に谷間ができると、100dB/Octの遮断特性のために低音が二つに聞こえます。高すぎると位相干渉が起り音が濁ります。最適クロスポイントを探すには、低目の周波数から試聴を始め1ステップずつ周波数を上げて下さい。二つに分かれていた低音が融合したときがベストのクロスポイントです。低音域のレンジが狭いスピーカーでは気付かにくかった、ブーミングや壁・床の振動など、オーディオルームの不具合に見舞われ、クロスポイントの設定が非常に困難なケースも起こり得ます、LV1200パネルの項と、弊社ホームページや掲示板のレポートなども参照して下さい。

